兵庫教育大学　研究紀要　第32巻　2008年２月　pp.33－41

日本におけるジョージ・ヘンリー・ルイス文献書誌（続）

A Bibliography of George Henry Lewes: Translations, Books, and Periodicals Published in Japan（Sequel）

大　嶋　　浩*
OSHIMA Hiroshi

This bibliography is a sequel to "A Bibliography of George Henry Lewes: Translations, Books, Newspapers and Periodicals Published in Japan," which appeared in the previous issue. It covers books（Japanese tranalations）, newsletters and periodicals with any references to George Henry Lewes. The entries are divided according to the year of publication and are presented in chronological order.

This is not a complete bibliography. I apologize for any inadvertent omissions and hope that further research will provide a comprehensive bibliography.

キーワード：書誌，ジョージ・ヘンリー・ルイス，日本
Key words：bibliography, George Henry Lewes, Japan

Ⅰ　はじめに

日本におけるジョージ・ヘンリー・ルイスの書誌として，ルイスの著作の翻訳関係，及び研究書・概説書関係のうちの和書等については，その調査結果をすでに前号において発表した。本書誌は，研究書・概説書関係のうちの翻訳書，及び会報・雑誌関係についての調査をまとめたものである。

各項目は年代順に整理されている。ただし，連載ものに関しては，初出を基準として一括して整理し，その細目は破線（----）で区切って明示している。

原則としてできるだけ発表当時の表記に準じ，旧字体を用いているが，一部新字体を採用したところもある。

まだ多くの遺漏があることと思う。本書誌をより完全なものにするために，情報等をお寄せいただければ幸いである。本書誌を作成するにあたっては，文献資料の調査・収集等において兵庫教育大学附属図書館の学術情報チームには特にお世話になった。ここに記して感謝する。

Ⅱ　ジョージ・ヘンリー・ルイス書誌（続）

2　研究書・概説書関係

2-1　和書等（前号に掲載）

2-2　翻訳書（雑誌等に掲載された翻訳に関しては「会報・雑誌関係」の項を見よ）

発行年月日		著　者	章題等	書　名・雑誌名等	訳　者	発行所，頁等	備　　考
1911.10.05	明治44	スキントン氏	「第三十九章 GEORGE ELIOT （MRS. G. H. LEWES）」の中の「ヂョーヂ．エリオット小傳」	スキントン氏英文學詳解	岡村愛藏譯注	興文社，p.495；記載は第五版（1913.04.27）に基づく	
1925.12.15	大正14	ストップフォード・オオガスタス・ブルック著，ヂオヂ・サムプスン補		ブルック英文學史－濫觴より現代に到る－	石井誠	東光閣書店，p.447.	

＊兵庫教育大学（社会・言語教育学系）
平成19年10月９日受理

1931.08.10	昭和6	小泉八雲	スキンバーン研究	小泉八雲全集第十三巻（學生版）	林　並木	第一書房，pp.187-275；ルイスへの言及はp.198.	
1932.02.10	昭和7	小泉八雲	十九世紀後半の英國小説	小泉八雲全集第十六巻（學生版）	田部隆次	第一書房，pp.539-93；ルイスへの言及はpp.544-46, 549, 550.	「リユイス夫人は狂人であった」（p.544）という誤った記述あり
1939.11.22	昭和14	J・B・プリーストリー		英國の小説	織田正信	東京堂，pp.156-57n18, 161.	
1941.03.20	昭和16	ブルック	一七一　女流作家	新譯　ブルック英國文學史	石井　誠	日本評論社，pp.298-301；ルイスへの言及はp.298.	
1942.04.20	昭和17	エリザベス・ギャスケル		シャーロット・ブロンテ傳	網野　菊	実業之日本社，pp.270-75, 279-85, 320-22, 338, 348-351.	原著の約半分を訳したもの；ルイス宛の手紙（pp.271-73, 279-85, 320-22, 349-51），ルイスの手紙（pp.348-49）
1956.06.10	昭和31	レティス・クーパー		英文学ハンドブック－「作家と作品」№15 ジョージ・エリオット	土井　治	研究社，pp.11-13, 23-24, 49-51.	
1958.02.15	昭和33	ハーバート・リード		文学批評論	増野正衛	みすず書房，p.297-98, 300.	1985.01.25に「新装版」発行。本項の記載はこの新装版による
1961.01.28	昭和31	A. ベネット	「文学－その味わい方」の中の「第11章　英文学の蔵書　第一期」	世界教養全集13	藤本良造	平凡社，pp.357-60. ルイスへの言及はp.365.	記載は第2版（1973）による；「第十三章　英文学の蔵書」の中で，「ジョージ・ヘンリィ・ルーエス，『ゲーテ伝』（エヴリマン文庫）」が挙げられている
1962.06.15	昭和37	J. B. プリーストリ		文学と人間像	阿部知二，大橋健三郎，小野協一，野崎孝，皆川宗一	筑摩書房，p.243.	1974年版（ペーパーバック版）と同一内容
1966.12.20	昭和41	ボーヴォワール		『第二の性＊＊』（ボーヴォワール著作集：第7巻）	生嶋遼一	人文書院，p.88；記載は重版（1972.10.20）による	重版（1972.10.20）；『決定版　第二の性』（1997.04.25）を参照
1967.03.30	昭和42	オウガスタス，ウード	詩伯「テニソン」	漱石全集　第十二巻　初期の文章及詩歌俳句（特装版）	夏目漱石	岩波書店，pp.317-33；ルイスへの言及はp.322.	
1969.10.15	昭和44	C. ファディマン	30 ジョージ・エリオット（一八一九-八〇）《フロス河の水車》	一生の読書計画	刈田元司	荒地出版，pp.91-93；ルイスへの言及はp.91.	
1975.08.30	昭和50	G. K. チェスタトン	ヴィクトリア朝の小説家	世界批評体系4 小説と現実	小池　滋	筑摩書房，pp.239-61；ルイスへの言及はp.240.	
1975.02.10	昭和50	H. スペンサー	思想的自叙伝	國學院法學	山下重一	國學院大学法學会，pp.56-101；ルイスへの言及はpp.67-68, 68-69, 70, 78.	Herbert Spencer, "The Filiation of Idea"（David Duncan, *The Life and Letters of Herbert Spencer,*1908, Appendix B, pp.533-76）の全訳

1976.02.15	昭和51	ライオネル・トリリング		〈誠実〉と〈ほんもの〉	野島秀勝	筑摩書房，p.69.	『若きウェルテルの悩み』に関するヴィクトリア朝時代の悪評に言及
1977.11.01	昭和51	エンツォ・オルランディ編	「ゲーテ評の変遷」の中の「フランス，イギリス，ロシア，スペインのゲーテ」	カラー版　世界の文豪叢書　ゲーテ	深町弘吉	評論社，pp.146-48；ルイスへの言及はp.147.	「1855年頃，ドイツが，この詩人のことを忘れてしまった時に，ゲーテについての初めての伝記的研究，ヘンリー・ルイスの『ゲーテの生涯』が出る。この伝記は全ヨーロッパの人気をさらうことになる。」（p.147）
1978.12.15	昭和53	エレン・モアズ		女性と文学	青山誠子	研究社，pp.48, 72-78, 79, 84-85, 100, 129, 133-35, 237, 238-89, 256-57, 264-65, 286, 457, 471, 481, 490, 491.	
1979.04.10	昭和54	G. K. チェスタトン	二　ヴィクトリア朝の小説家	ヴィクトリア朝の英文学	安西徹雄	春秋社，pp.81-43；ルイスへの言及はp.85.	
1979.06.15	昭和54	アンガス・ウィルソン		ディケンズの世界	松村昌家	英宝社，pp.196, 261-62.	
1980.05.24	昭和55	ギャスケル夫人		シャーロット・ブロンテの生涯	和知誠之助	山口書店，pp.360-66, 370-76, 400n(9), 400n(10), 441-42, 459-61, 475, 476, 479, 487n(3), 503-05, 515n(1), 597.	ルイス宛の手紙（pp.361-63, 365-66, 370-74, 441-42, 459-61, 504-05），ルイスからギャスケル夫人宛の手紙（pp.360, 460, 503-04）
1980.10.31	昭和55	デビッド・スキルトン	「第9章　ビクトリア朝の個人に対する考え方：ブロンテ姉妹，サッカレー，トロロープ，ジョージ・エリオット」の中の「ジョージ・エリオット（George Eliot）」	イギリスの小説	藤井　繁	千城，pp.143-52；ルイスへの言及はp.146.	
1980.12.10	昭和55	ラフカディオ・ハーン		ラフカディオ・ハーン著作集　第六巻　文学の解釈・Ⅰ	池田雅之，伊沢東一，金沢　豊，中里壽明，立野正裕	恒文社，pp.307-08, 310, 311；記載は第二版（1989.01.20）による；『文学の解釈』（全二巻）は東京帝大で1896年（明治29年）から1903年（明治36年）まで行った主要な英文学講義（44編）を編纂したもの	「ルイス夫人は狂気の人」（p.307）という不正確な記述あり
1982.12.30	昭和57	ラフカディオ・ハーン	「XI　ヴィクトリア時代の小説」の中の「ジョージ・エリオット」	ラフカディオ・ハーン著作集　第十二巻　文学史　Ⅱ	野中涼・野中恵子	恒文社，pp.242-51；ルイスへの言及はpp.243-44, 247；ハーンは明治29年秋から明治36年3月まで東京大学で毎週英文学史の講義を行った。この6年半の間にその講義は二まわりした。この『英文学史』はその二回目の講義を聞いた学生のノートブックを本に編集したもの（ラフカディオ・ハーン，『英文学史Ⅰ』，野中涼・野中恵子訳［恒文社，1981］の「解説」［p.479］を参照）	「ルイスには気がちがった妻がいて」（p.243）という不正確な記述あり

1983.06.30	昭和58	ラフカディオ・ハーン	第4章　スウィンバーン研究	ラフカディオ・ハーン書著作集第八巻　詩の鑑賞	篠田一士，加藤光也	恒文社，pp.176-238；ルイスへの言及はp.183；記載は第二版（1993.06.30）による	「特にルイスと，あるいはフレデリック・ハリスンとによって解釈されたコント」（p.183）
1985.06.25	昭和60	バジル・ウィリー		十九世紀イギリス思想：コウルリッジからマシュー・アーノルドまで	米田一彦，松本啓，諏訪部仁，川口紘明　共訳	みすず書房，p.299.	
1986.04.25	昭和61	ピエール・クーステイアス，ジャン・P・プチ，ジャン・レイモン		十九世紀のイギリス小説	小池滋，臼田昭	南雲堂，pp.44，117.	
1987.6.28	昭和62	ジョン・フォースター		定本　チャールズ・ディケンズの生涯　下巻	宮崎孝一監訳，間　二郎，中西敏一共訳	研友社，pp.1，81，240-43，245-46，368n(7)，424n(2)，424n(12)；『フォートナイトリー・レヴュー』に掲載されたルイスのディケンズ評に言及（pp.240-43）	
1988.02.29	昭和63	ヴァージニア・ウルフ		自分だけの部屋	川本静子	みすず書房，p. 201nn43，44，48.	
1988.05.20	昭和63	A. ジョンソン	第13章　ジョージ・エリオット（1819-80）	イギリス小説入門－ディケンズからコンラッドまで－	植松靖夫	高科書店，pp.73-86；ルイスへの言及はp.75.	
1988.09.20	昭和63	R. アシュトン	エヴァンズとルーイス	ジョージ・エリオット	前田絢子	雄松堂出版，pp.1-29；他にpp.31-32，38，47-48，50，51，52，65，66，69，72，78，81，100，120，130でもルイスに言及	
1989.04.10	平成元	ヘンリー・ジェイムズ	ジョージ・エリオットの生涯	広瀬佳司著『ジョージ・エリオットの悲劇的女性像』	広瀬佳司	千城，pp.158-73；ルイスへの言及はpp. 160，162-63，164，169，170-71，172.	
1990.10.10	平成2	エレイン・ショーウォーター		心を病む女たち－狂気と英国文化	山田晴子，薗田美和子	朝日出版，p.34.	
1991.03.30	平成3	イーディス・シットウェル		英国畸人伝	松島正一，橋本槇矩	青土社，p.155.	
1993.02.20	平成5	E. ショウォールター		女性自身の文学	川本静子，岡村直美，鷲見八重子，窪田憲子共訳	みすず書房，pp.1，2，3，5，21-22，29，33，36，59-60，66，74，75，76，77，78，80，82，83，84，85，89，94，134，230，287.	
1993.06.30	平成5	ジョン・ウェルズ		ロンドン図書館物語	高島みき	図書出版，pp.184，199-202，203，206，214，265.	
1995.02.22	平成7	オウガスタス，ウード	詩伯「テニソン」	漱石全集　第十三巻　英文学研究	夏目金之助	岩波書店，pp.135-52；ルイスへの言及はpp.151，651n一五一・6.	
1995.10.10	平成7	エリザベス・ギャスケル		シャーロット・ブロンテの生涯（ブロンテ全集12）	中岡　洋	みすず書房，pp.388-95，399-406，479-81，497-99，515，519，542-44，745n(40)，745n(41)，746n(47)，746n(59)，756n(11)，757n(9).	ルイス宛の手紙（pp.389-91，394-95，400-04，479-81，497-99，543-44），ルイスからギャスケル夫人宛の手紙（pp.389，497，542-43）
1995.10.30	平成7	リン・バーバー		博物学の黄金時代	高山　宏	国書刊行会，pp.22，31，39，53-54，114，168，170-72.	『海辺での生活』，『動物生活研究』に言及

1997.04.25	平成9	シモーヌ・ド・ボーヴォワール		決定版　第二の性Ⅱ　体験	中嶋公子/加藤康子　監訳	新潮社，p.577.	
1997.04.30	平成9	ジョン・ペンブル		地中海への情熱—南欧のヴィクトリア＝エドワード朝のひとびと	秋田淳子，加藤めぐみ，渡辺佳余子	国文社，pp.33，35，171，197，292，351-52，373-74.	
1997.11.05	平成9	ライオネル・トリリング		E. M. フォースター	中野康司	みすず書房，p.186.	
1997.11.21	平成9		ルイス，ジョージ・ヘンリー	岩波=ケンブリッジ　世界人名辞典	日本語版編集主幹　金子雄司，富山太佳夫	岩波書店，p.1212.	
1998.04.25	平成10	ジョン・グロス		ユダヤ人の商人シャイロック	富山太佳夫，越智博美	青土社，pp.154，160-61.	ルイスの演劇評及びルイスの舞台演技に言及
1998.05.20	平成10	ジリアン・ビア		ダーウィンの衝撃	渡辺ちあき，松井優子	工作舎，pp.18，40-41，212-13，256，259，260，274，275，277，280，283，310-11，378.	
1998.06.25	平成10	リチャード・D・オールティック		ヴィクトリア朝の人と思想	要田圭治，大嶋浩，田中孝信	音羽書房鶴見書店，pp.296，431.	
1998.08.25	平成10	カミール・パーリア		性のペルソナ（下）：古代エジプトから19世紀末までの芸術とデカダンス	鈴木晶，富山英俊，栂　正行，保坂嘉恵美，葉月陽子	河出書房新社，p.133.	
1998.11.01	平成10	スティーヴン・カーン		愛の文化史（上）—ヴィクトリア朝から現代へ	斉藤九一，青木健	法政大学出版局，叢書・ウニベルシタス　578，pp.34, 94, 121，138，263.	『ランソープ』に言及
1998.11.01	平成10	スティーヴン・カーン		愛の文化史（下）—ヴィクトリア朝から現代へ	斉藤九一，青木健	法政大学出版局，叢書・ウニベルシタス　579，pp.345-46，530.	『ランソープ』に言及
2001.04.01	平成13	シモーヌ・ド・ボーヴォワール		決定版　第二の性Ⅱ　体験　下巻	『第二の性』を原文で読み直す会	新潮社，新潮文庫，pp.411.	1997.04.25刊行本の文庫版
2004.09.28	平成16	ピーター・ゲイ		小説から歴史へ—ディケンズ，フロベール，トーマス・マン—	金子幸男	岩波書店，pp.27，39.	ルイスのディケンズ評に言及
2005.02.20	平成17	メリン・ウィリアムズ		女性たちのイギリス小説	鮎澤乗光，原公章，大平栄子	南雲堂，pp.32，59，239.	
2006.10.06	平成18	ジュリエット・バーカー		ブロンテ家の人々（上）	中岡洋，内田能嗣監訳	彩流社，p.150.	
2006.10.16	平成18	ジュリエット・バーカー		ブロンテ家の人々（下）	中岡洋，内田能嗣監訳	彩流社，pp.210，224，225，226，243，330-34，364，377-78，409，496-97，616，619.	

3　会報・雑誌関係（昭和期以降は一部のみ収録）

発行年月日		著　者	タイトル	雑誌・図書名	訳者, 発行所, 頁等	備　　考
1888.05.12	明治21	平野はま子	ジヨウジ，エリオット女子小傳	女學雑誌	第百九號，pp.20-22.（佳傳）	表紙についている目次には「佳傳　エリヲット　女史」，本文の記載による；ルイスへの言及はp.21.
1888.05.19			ジョウジ，エリオット女子小傳（其二）		第百拾號，pp.19-21.（佳傳）	
1892.12.05	明治25	オウガスタス・ウード（夏目漱石訳）	詩伯「テニソン」	哲學会雑誌	第七冊第七十號，pp.516-22.（史傳）	夏目漱石の翻訳であると推定されている（『『漱石全集　第十二巻　書記の文章及詩歌俳句』（特装版）』（岩波書店，1967）の「解説」（p.840）を参照）
1893.01.10	明治26	オーガスタス[ママ]・ウード	詩伯「テニソン（承前）」		第八巻[ママ]第七十一號，pp.584-88.（史傳）	
1893.03.10		オーガスタス[ママ]・ウード	詩伯テニソン[ママ]（完結）		第八巻[ママ]第七十三號，pp.749-57.（史傳）	ルイスへの言及はp.756.；内題（本文中のタイトル）は「詩伯『テニソン』（承前）」
1893.03.31	明治26	棲月	英国騒壇の女傑　ジョージ　イリオット	文学界	第三號，pp.1-9（各号通しの頁番号というものはなく，各題目ごとに頁が付けられている）	表紙には「女文傑イリヲット　棲月」，目次には「ジョージ，イリオット　棲月」；棲月子とは戸川秋骨のこと；「仏のシューレルのエリオット論によったもの（笹淵友一，『「文学界」とその時代　下』［1960.01.25］，p.507）；ルイスへの言及はpp.1-4.
1895.10.10	明治28	讃美生	巾幗文豪	家庭雑誌	第六拾参號，pp.3-8.（史談）	讃美生とは宮崎湖処子のこと；ルイスのオースティン賛美に言及（p.7）
1896.01.20	明治29	Frederick Harrison	ヴイクトリヤ朝の英文學（現代英國の文豪フレデリック，ハリゾン氏[ママ]が一昨年公けにしたる論文）	日本英學新誌	第八十八號，pp.1-5.	Frederick Harrison, "English Literature of the Victorian Age" の翻訳；後年Frederic Harrisonが出版した評論集*Studies in Early Victorian Literature*（London and New York: Edward Arnold, 1895）でいえば，その第1章 "Characteristics of Victorian Literature" 中のpp.1-21に書かれている内容と，ごくわずかな相違を除き，ほぼ完全に一致する
1896.01.22			ヴイクトリヤ朝の英文學（現代英國の文豪フレデリック，ハリゾン氏[ママ]が一昨年公けにしたる論文）〔續〕		第八十九號，pp.1-4.	
1896.02.28			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリゾン[ママ]）（續）		第九十一號，pp.1-3.	
1896.03.28			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリゾン[ママ]）（續）		第九十二號，pp.1-3.	
1896.05.25			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリソン（續）		第九十五號，pp.1-3.	
1896.06.15			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリソン（續）		第九十六號，pp.1-3.	

1896.06.30			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリゾン[ママ]）（續）		第九十七號，pp.1-3.	ルイスへの言及はpp.2, 3.
1896.07.20			ヴイクトリヤ朝の英文學（フレデリック，ハリゾン[ママ]）（續）		第九十八號，pp.1-3.	
1898.08.10	明治31	泡鳴子（岩野泡鳴）	「といふ」録	女學雜誌	第四百六拾九號，pp.24-26.（雜錄）	「リウス」への言及はp.25.
1902.01.	明治35		十九世紀に於ける歐米の大著述	學鐙	第五十六號，pp.11-102.	目次の表記は「十九世紀に於ける歐米の大著述に就ての諸家の答案（ABC順）」；ルイスへの言及はp.73（田中喜一が「(4)哲學に関する大著述」において「George Lewis: Life and Mind」[ママ]を挙げている）
1902.02.		福田德三，樋口秀雄，葛岡信虎，丸山通一			第五十七號，pp.7-26.	
1902.03.01		工學博士大竹多氣			第五十八號，pp.7-9.	
1903.10.15	明治36	蘭蕙書屋主人	十九世紀後半藝文年表（一）	學鐙	第七年第十號，pp.14-17.	
1903.11.15			十九世紀後半藝文年表（二）		第七年第十一號，pp.21-24.	ルイスへの言及はp.22：「リューキス "Life and Mind."」
1903.12.15			十九世紀後半藝文年表（三）		第七年第十二號，pp.16-18.	
1905.02.15	明治38	夏目金之助	カーライル博物館に藏する遺書目錄	學鐙	第九年第二號，pp.8-26.	ルイスへの言及はp.11：「52. Lewes, G. H. Ranthorpe, 1847. Presentation Copy to Mrs. Carlyle."」
1905.10.15	明治38	宮崎湖處子	女作家オーステン孃	婦人畫報	臨時增刊貴婦人，第一卷第五號，近事畫報社，pp.5-12.	ルイスのオースティン賛美に言及（p.10）
1906.10.15	明治39	夏目漱石	人工的感興	新潮	第五卷第四號，pp.1-3.	ルイスへの言及はp.1.
1912.12.18	大正元	渓々子	女流作家エリオットに就て	學鐙	第十六年第十二號，pp.13-18.	「渓々子」とは内田魯庵の筆名；ルイスへの言及はpp.13, 14.
1930.07.01	昭和5		「新刊紹介」の中の「Studies in the Mental Development by M. Toyoda」	英語青年	第六十五卷第七號，研究社，p.34.	
1939.03.01	昭和14	前田武雄	福原麟太郎編　英文學史概要（63）：George Eliot	英語の研究と教授	第七卷第十二號，pp.7-8.	ルイスへの言及はp.7.
1939.03.01	昭和14	藤島主殿	福原麟太郎編　英文學史概要（63）：The Brontës	英語の研究と教授	第七卷第十二號，pp.8-9.	ルイスへの言及はp.8.
1948.04.10	昭和23	工藤好美	ジョージ・エリオット	英語青年	創刊五十周年記念號，研究社，p.49.	
1959.01.10	昭和34	川副国基	文学革新と英国の評論雜誌	文学	一月号（Vol.27），岩波書店，pp.54-61.	ルイスへの言及はpp.57, 59.
1981.08.01	昭和56	山本節子	ジョージ・エリオットの夫〈特集：女性と英米文学〉	英語青年	8月号，第127巻第5号　研究社，p.325.	

1981.08.01	昭和56	倉持晴美	G. エリオット 百年の声価（新文芸叢話 5）	英語教育	8 月号，第 3 巻第 5 号，大修館書店，pp.58-59.	ルイスへの言及はp.58.
1983.06.01	昭和58	鶴見俊輔	女流作家とその「夫人」	文藝春秋	6 月号，文藝春秋，pp.278-81.	ルイスへの言及はpp.280-81.
1988.01.31	昭和63	鮎沢乗光	（書評）J. B. Bullen: *The Expressive Eye: Fiction and Perception in the Works of Thomas Hardy* Oxford University Press, 1986. xviii+279 pp.	英文学研究	第六十四巻第二号，日本英文学会，pp. 352-56.	ルイスへの言及はp.353.
1993.12.19	平成5	直野裕子	Charlotte Brontë と George Henry Lewes	*Brontë Newsletter of Japan*	日本ブロンテ協会，第23号，p.1.	
1995.01.15	平成7	高山宏，加賀野井秀一	特別対談〈『海』を語る〉3（最終回）ミシュレ，最後のロマン派	機	1 月号， No.45，藤原書店， pp.14-17.	ルイスへの言及はp.14.
1998.10.31	平成10	青山誠子	英文学とフェミニズム	JIU国際講座　第 3 集　国際交流・情報・ジェンダー・日本文化	城西国際大学，pp. 78-106.	ルイスへの言及はp.90.
2002.10.05	平成14	松村昌家	ジョージ・オーウェルおよびそれ以前	ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報	第25号，ディケンズ・フェロウシップ日本支部， pp. 168-73.	ルイスへの言及はpp.172-73.
2002.11.22	平成14	Yoko Nagai（永井容子）	A Gift of Integrity: Affinity between George Henry Lewes and George Eliot	ジョージ・エリオット研究	第四号，日本ジョージ・エリオット協会，pp.47-61.	
2003.11.22	平成15	松村昌家	小説家としてのG.H. Lewes ―*Ranthorpe* をめぐって―	ジョージ・エリオット研究	第五号，日本ジョージ・エリオット協会，pp.1-11.	日本ジョージ・エリオット協会第 6 回全国大会（2002.11.30，帝塚山大学にて開催）における特別講演に基づくもの

主要参考文献

浅野福治.「日本におけるジョージ・エリオット－書誌つき－」.『学苑』424（1975）: 162-79.
安藤勝編.『外国文学研究文献要覧Ⅰ＜英米文学＞篇（1965－1974）』. 日外アソシエーツ，1977.
安藤勝編.『英米文学研究文献要覧（1975-1984）』. 日外アソシエーツ，1987.
安藤勝編.『英米文学研究文献要覧（1985-1989）』. 日外アソシエーツ，1991.
安藤勝編.『英米文学研究文献要覧（1945-1964）』. 日外アソシエーツ，1994.
安藤勝編.『英米文学研究文献要覧（1990-1994）』. 日外アソシエーツ，1996.
安藤勝編.『英米文学研究文献要覧（1995-1999）』. 日外アソシエーツ，2001.
榎本隆司編.「民友社文學年表」.『民友社文學集』明治文學全集36. 筑摩書房，1970.
岡野他家夫.『明治文学研究文献要覧』. 1944. 冨山房，1976.
木村毅・斎藤昌三.『西洋文学翻譯年表』. 岩波講座　世界文学. 岩波書店，1933.
近代文学研究会代表 人見圓吉.「岩野泡鳴」.『近代文学研究叢書　第十九巻』. 昭和女子大学，1962. 217-364.
『国際子ども図書館開館記念　子どもの本・翻訳の歩み展展示会目録』. 国立国会図書館，2000.
国立国会図書館整理部編.『国立国会図書館所蔵　明治期刊行図書目録 第 4 巻』. 国立国会図書館，1974.
国立国会図書館整理部編.『国立国会図書館所蔵　明治期刊行図書目録 第5巻』. 国立国会図書館，1974.
国立国会図書館編.『明治・大正・昭和　翻訳文学目録』. 風間書房，1959.
佐藤輝夫編.『近代日本における西洋文学紹介文献書目・雑誌篇（1885-1898）』. 悠久出版，1970.
昭和女子大学近代文学研究室.「夏目漱石」.『近代文学研究叢書　第17巻』. 昭和女子大学近代文化研究所，1961. 17-215.
昭和女子大学近代文学研究室.「内田魯庵」.『近代文学研究叢書 第三十一巻』. 訂正版. 昭和女子大学近代文化研究所，1970. 17-125.
昭和女子大学近代文学研究室.「森 鴎外」.『近代文学研究叢書 第二十巻』. 昭和女子大学近代文化研究所，1963. 109-427.
田熊渭津子編.「明治翻譯文學年表」.『明治翻譯文學集』明治文學全集7. 筑摩書房，1972.
宮崎芳三［ほか］編.『日本における英国小説研究書誌 昭和43－昭和47』. 1974：風間書房，1980.
宮崎芳三［ほか］編.『日本における英国小説研究書誌 昭和48－昭和52』. 1980；風間書房，1985.
宮崎芳三［ほか］編.『日本における英国小説研究書誌 昭和53－昭和56』. 風間書房，1985.
宮崎芳三［ほか］編.『日本における英国小説研究書誌 昭和57－昭和60』. 風間書房，1987.
柳田泉.『西洋文学の移入』. 春秋社，1974.
吉井好隆.『明治・大正の翻訳史』. 研究社，1959.
和知誠之助.「日本におけるジョージ・エリオット」.『甲南女子大学研究紀要』2（1965）: 91-102.